【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【公開番号】特開2007-330867(P2007-330867A)
【公開日】平成19年12月27日(2007.12.27)
【年通号数】公開・登録公報2007-050
【出願番号】特願2006-163867(P2006-163867)
【国際特許分類】
*Ｂ０５Ｂ　5/025　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｂ０５Ｂ　5/025

【手続補正書】
【提出日】平成20年9月25日(2008.9.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
液体に高電圧を印加して静電霧化する静電霧化装置において、静電霧化のために供給する液体に除菌力のある金属イオンを溶出させる金属イオン溶出手段を設けて成ることを特徴とする静電霧化装置。
【請求項２】
液体を溜める液体溜め部と液体を搬送する液体搬送部を備え、該液体搬送部の先端部に供給された液体に高電圧を印加する静電霧化装置であって、金属イオン溶出手段が、液体溜め部に配置した２種類の金属に電位差を生じさて金属イオンを溶出させるものであることを特徴とする請求項１記載の静電霧化装置。
【請求項３】
上記液体に金属イオンを溶出させるための金属がＡｇ又はＣｕであることを特徴とする請求項１又は請求項２記載の静電霧化装置。
【請求項４】
金属イオン溶出手段が、２種類の金属に外部より電圧を印加して電位差を生じさせるものであることを特徴とする請求項２記載の静電霧化装置。
【請求項５】
２種類の金属間に印加する電圧を可変することで金属イオンの溶出量を制御することを特徴とする請求項４記載の静電霧化装置。
【請求項６】
液体の導電率を測定し、導電率の測定結果に基づいて２種類の金属間に印加する電圧を可変することで金属イオンの溶出量を制御することを特徴とする請求項４記載の静電霧化装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
また、液体Ｗに金属イオンを溶出させるための金属３がＡｇ又はＣｕであることが好ま

しい。また、金属イオン溶出手段Ｂが、２種類の金属３に外部より電圧を印加して電位差を生じさせるものであることが好ましい。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
図１、図２に示す実施形態、図３、図４に示す実施形態における金属イオン溶出手段Ｂは、液体溜め部１内に２種類の金属３（３ａ、３ｂ）を配置し、液体溜め部１の外部に配置した電圧印加部８から両金属３ａ、３ｂに電圧を印加するように構成してあり、電圧を印加することで両金属３ａ、３ｂ間に電位差を生じさせて金属イオンを液体Ｗ中に溶出するようになっている（つまり、電気分解と同じシステムで金属イオンを液体Ｗ中に溶出するようになっている）。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
使用される金属３としては除菌性を有する金属３が用いられ、特に、Ａｇ又はＣｕが除菌効果が優れていて好ましい。図１、図２に示す実施形態、図３、図４に示す実施形態においては２種類の金属３ａ、３ｂとしてＡｇとＣｕとを用いた例を示しており、電圧を印加することで$Ａｇ^{+}$イオンを溶出するようになっているが、必ずしもこれにのみ限定されるものではない。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】削除
【補正の内容】